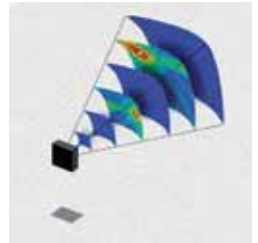
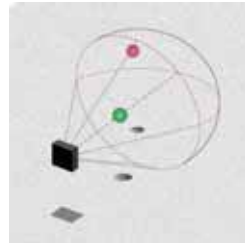
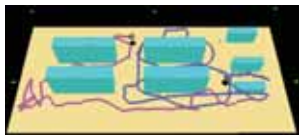


多様化するニーズに応える ハード&ソフトウェアの 開発技術



株式会社プロアシスト

**深いハードウェア知識をベースに
多様な商品開発**

設立以来、顧客のニーズに応じたソリューションを提供、組み込みシステム開発やハードウェア開発、アプリケーションシステム開発を行っているプロアシスト。「酒気帯び検証装置」、縫製業等で使用する「工程分析システム」、人の動きを検出する「位置計測システム」、Webを使用した学習用のアプリケーション「e-ラーニングシステム」等をはじめとする様々な製品を開発。時代とともに変化する多様なニーズを商品へと変えてきた。

医療分野への応用としては、財団法人大阪バイオサイエンス研究所の依頼で病院内に限らずどこでも簡単に計測することができる脳波計等も製造。これは、睡眠と脳波の関係を測るものだが、従来の脳波計は、つけて眠ることが困難なくらいに多くの電極を使用しなければならなかった。それが、この脳波計なら電極は



3つ。深いハードウェア知識と最新の技術力を発揮した好例である。

柔軟性のある生産体制

「現在は、多品種少量生産の時代です。だからこそ、品質の良いものを仕上げることができれば、ビジネスチャンスがあると考えています」と生駒京子社長。例えば大規模集積回路であるLSI開発では、回路設計や試作までは自社内にて行い、実際の生産はアウトソーシング。最新の設備を持つ工場を選んでオーダーできるなど、「ファブレス」のメリットが享受してきた。しかし、「必要性が高まれば、将来は工場を持つことも視野に入れていきます。いずれにしても、ものづくりメーカーとして力を発揮するため、既成の概念にはとらわれずに前進したい。そのためには、新しい試みは欠かせないと考えています」と時代に合わせた開発理論がベースだ。

超音波で作る三次元画像

そして、現在、同社が最も力を入れているのが、3Dセンシング&コントロール（三次元の計測と制御）だ。空气中に超音波を照射し、人等の対象物に当たって跳ね返ってくる反射波を信号処理することで、対象物を三次元画像化できる製品「三次元超音波画像センサユニット」はすでに同社で開発済みだが、さらに「リアルタイムで人間の目のように三次元で見る」製品を開発するプロジェクトを立ち上げているのだ。

「三次元を扱うようになったのは5年前から。それまでは、画像処理での検査等、二次元を扱っていたんです」と、生駒社長。そして、関連分野としてRCT（ロボットコミュニケーションテクノロジー）を意識し始めた。ロボットを作る際は、人間の五感をすべてセンサーで作らなければならぬが、同社の制御システム開発技術での対応が可能だ。五感のうちいくつかを制御するセンサー作りに携われれば、と考えている。高水準の技術力を有する集団は、成長を続けている。

主な事業内容

組み込みシステム開発・ソフトウェア開発、ハードウェア開発、WEB開発等



生駒京子さん
代表取締役

株式会社プロアシスト

Company Profile

住所 〒541-0043
大阪府大阪市中央区高麗橋2-3-9
星和高麗橋ビル1F
設立 平成6年4月
資本金 5,000万円
従業員 117名（平成21年1月現在）
TEL 06-6231-7230
FAX 06-6231-7261

大阪
20

<http://www.proassist.co.jp/>